ネギのハウス越冬育苗による７月どり栽培

氏名・本庄　求・武田　悟・加賀屋博行

１．ねらい

本県では、7月のネギの生産は少なく、生産が本格的となる8月中旬より早く収穫できる7月どり作型の確立は長期出荷体制整備のために重要である。現地の7月どりは、前年度に播種し地床育苗した大苗を翌年度の春に半自動移植機で定植する作業体系である。これまでの栽培は、5月から6月にかけて発生する花球(ネギ坊主)を除去し、花茎側芽の発達した新生株を収穫しており、花球の除去に要する労力が大きく問題となっている。そのため、晩抽性品種を導入し、花球除去のいらない栽培法が試みられてきている。そこで安定して抽だいを抑制できる７月どり作型の確立のため、適正な播種期と定植期を明らかにするとともに本作型における花芽分化特性を把握する。

２．試験方法

(1)試験年次及び場所　2004年 9月～ 2005年 7月

試験は秋田県農林水産技術センター農業試験場内で行った。

(2)試験方法

育苗方法は地床、チェーンポット(以下CP)とした。播種は9月3日、9月16日、10月1日に行った。地床では直接ハウス内に播種し、CP は50日間育苗した後それぞれ10月22日、11月5日、11月19日にハウス内に仮植した。定植は翌年の4月19日、5月11日に行った。収穫調査は7月25日に行った。試験は1区5㎡の2反復で行った。

(3)栽培概要

品種は'羽緑一本太'を用いた。畝幅は100cm、株間は4cm とした。施肥量は a 当たり基肥で窒素、リン酸、カリ各　1.5kg、追肥でそれぞれ1.6kg、0.4kg、1.6kgとした。

３．結果及び考察

(1)定植時の苗の生育量

5/11の生育量は4/19より葉鞘径で1.3～1.7mm 大きく、大幅に増大した。同じ播種日では地床が CP より大きかった。CP・10/1播種は顕著に小さかった(表1)。

(2)収穫時期、収量及び抽だいの発生からみた適正な播種期と定植期

5/11定植では7/25までに出荷できる生育量が確保されなかった(表2)。

4/19定植では CP・10/1播種が7/25までに出荷できる生育量が確保されなかったが、その他は出荷できる生育量となった。抽だい株の側芽は未抽だい株に比較して生育量は小さかったが、ほとんど出荷できる生育量となっており、収量は抽だいの発生量に関わらず、ほぼ同等となった(表2)。

抽だいの発生は地床では9/3と9/16播種で多く、10/1播種ではほとんどみられなかった。CP では9/3播種でみられたが、9/16と10/1播種ではほとんどみられなかった(表2、図2)。地床は CP より生育量が大きかったので、CP ではほとんど抽だいの発生がみられない9/16播種でもみられた。

このことから、定植は4月中旬に行い、抽だいを極力少なくするためには、地床では10月上旬、CP では9月中旬に播種するのが適当であった。また、4月中旬定植がハウスで苗を大きくし定植時の気温等の条件が良い5月中旬定植より早く収穫できたことにより、本作型では定植時期を遅れさせないことが重要であると考えられた。

(3)本作型における花芽分化の特性

ハウスでの育苗期間では4/5からはステージⅠがみられなくなり(図1)、これ以降ハウスでの育苗中には、新たな花芽分化がほとんどなかったと思われた。このことから花芽分化を抑えるには4月上旬までの生育量が重要であると考えられた。

4/19定植と5/11定植の最終的な抽だい率は、若干のばらつきはあるもののほとんど差はなく、地床では9/3、9/16、10/1でそれぞれ20%前後、35%前後、2%未満、CP ではそれぞれ17%前後、2%未満、0%となった(図2)。このことから、4/19以降は露地に定植しても、新たな花芽分化がほとんど起きなかったと推測された。

当農試では、雪解けが遅く定植の早限は4月中旬頃であるが、雪解けの早い沿岸部では、もっと早く定植すれば収穫時期が早まると期待される。しかし4月中旬前に定

植すると低温等の影響で、花成誘導されるおそれもあることから、沿岸部での定植時期はさらに検討が必要である。

４．まとめ

ネギのハウス越冬育苗による抽だいを極力抑えた７月どり栽培の確立に向け、播種期と定植期を検討した。播種は地床では10月上旬、50日育苗するチェーンポット育苗では9月中旬とし、定植を翌年の4月中旬に行うと7月下旬には、出荷できる生育量が確保できた。

表１　定植時の苗の生育量

定植日	育苗	播種日	生葉数	全長	分岐長	葉鞘径	地上部１本重
			(枚)	(cm)	(cm)	(mm)	(g)
4月19日	地床	9月3日	4.5	60	21	9.4	28
		9月16日	3.3	61	20	9.4	31
		10月1日	3.2	57	17	8.9	26
	CP	9月3日	4.6	61	19	9.0	29
		9月16日	3.2	59	17	7.4	18
		10月1日	2.6	36	11	4.5	4
5月11日	地床	9月3日	4.3	73	25	11.2	47
		9月16日	4.3	75	23	11.0	50
		10月1日	4.4	73	21	10.7	45
	CP	9月3日	4.5	76	23	10.2	49
		9月16日	3.9	74	20	9.0	33
		10月1日	3.3	54	14	5.9	9

表２　収穫調査（７月２５日）

定植日	育苗	播種日	抽だい率	調製前				調製後・規格内1)					
				地上部１本重	全長	分岐長	葉鞘径	本数	葉鞘長	軟白長	葉鞘径	地上部１本重	収量
			(%)	(g)	(cm)	(cm)	(mm)	(本/m)	(cm)	(cm)	(mm)	(g)	(kg/10a)
4月19日	地床	9月3日	24	166	93	35	18.7	23.5	32	27	16.0	106	2,498
		9月16日	32	175	94	36	19.8	24.5	33	28	16.2	106	2,609
		10月1日	0	171	93	36	18.1	23.5	33	27	16.2	107	2,516
	ＣＰ	9月3日	16	187	98	37	19.5	24.5	35	29	16.5	112	2,739
		9月16日	1	175	96	36	17.9	25.0	33	27	15.5	107	2,667
		10月1日	0	138	84	33	16.5	–	–	–	–	–	–
5月11日	地床	9月3日	19	86	76	29	14.9	–	–	–	–	–	–
		9月16日	36	104	81	30	15.9	–	–	–	–	–	–
		10月1日	0	103	81	31	14.2	–	–	–	–	–	–
	ＣＰ	9月3日	18	114	82	30	16.1	–	–	–	–	–	–
		9月16日	0	112	82	30	15.1	–	–	–	–	–	–
		10月1日	0	84	79	26	13.7	–	–	–	–	–	–
参考2)	ＣＰ慣行	2月10日	0	111	74	26	15.4	–	–	–	–	–	–

1)2.5～3.5葉に調製。軟白長25cm以上、葉鞘径10mm以上27mm未満、盤茎部から60cmで葉切り
2)品種　'夏扇4号'。2月10日に播種し、温室で育苗後、4月26日にひっぱりくんで定植。

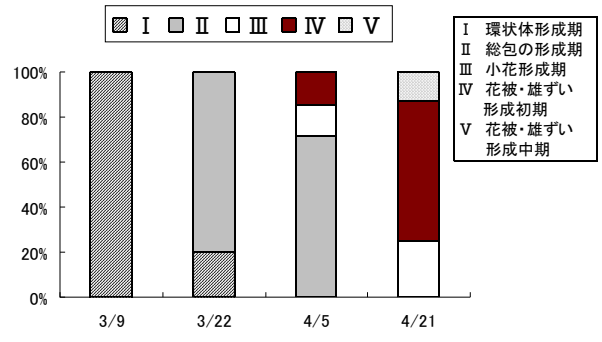

図１　育苗時の花芽分化株*における分化ステージ割合の推移　*9/16播種地床区調査分。20株調査

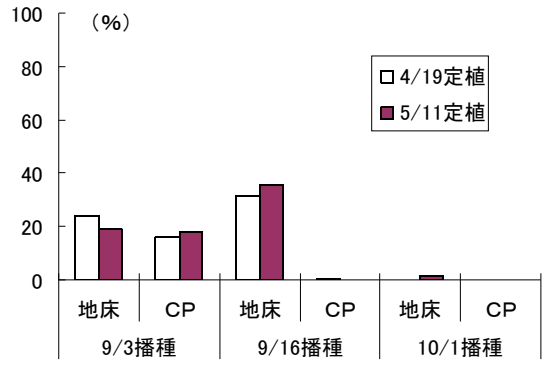

図２　定植日、育苗方法、播種日の違いによる抽だいの発生率(6月28日最終調査。200株調査)